

委員名	ヒアリング項目	ヒアリング項目2	その他ご意見
	5つの基本目標について	改定するほうがよい場合、具体的な改定案について記入してください。	
秋本委員	改定するほうがよい	目指す環境の姿「人と環境とのすこやかな関わりを誇れる都市・あしや」のテーマは良い。それに伴う5つの基本目標もその通りで特に改定する目標とまで言い切れるものはないが、もう少しインパクトのある前進するイメージを加味した文言、未来を見越した基本目標・文言を掲げられないだろうか。 例えば③美しく活力のあるまちなみを創る ※守る⇄防ぐ 創る⇄積極的に市民参加意識に訴えられると思う。	年月を振り返るとかなりの部分が改良されており施策の見直しが必要と思う。目標を掲げて、方向性が定まり、確実に実行して成果を出す段階に来ていると思う。 学校で学びがあっても、家庭に帰った時、活かされているのだろうか。 大人・市民が児童の手本とならなければ、環境を守ることは日常において当たり前のこととして生活に入っていかなければならない。ゴミ問題は特に・・・。 ◎冊子p5のイメージ：市民、事業者、市の連携→支える手/取組の基盤→地域コミュニティ、コーディネーター、協力人材が必要と思います。
飯嶋委員	ご意見なし	—	—
池内委員	改定するほうがよい	5. 循環型社会を創る：「循環型社会形成推進法」を意識する。施策の方向で、水資源の有効な活用の趣旨が不明（透水性舗装や雨水浸透樹は、活用ではなく洪水対策）これ以外に5Rを意識した「リデュース」や「リペア」を加えたい。また、マイバッグは、レジ袋の有料化で一般化してきているが、ペットボトルの氾濫が目立っている。持ち帰りして資源として回収する。	1. 自然環境を守る：①ピオトープの活用（ピオトープが一個所しかなく、管理が十分とは言えない。数を増やし、活用しやすいように管理する必要がある）②観察会の実施（近年、観察会が開催されていない）③森や草原の維持にも力を入れ、市民が利用しやすいように管理すると共に、啓蒙や案内も行う。 4. 地球温暖化を防ぐ：①施策の方向は良いと思うが、これを実現するための具体的な方策に乏しい（家庭でのエネルギー使用量の把握など）②森林資源の活用（簡易なプラスチック製ではなく木製品の利用を推進する）
大脇委員	継続するほうがよい	—	5つの基本目標については大きく変えず、これまでの成果も併せて確認していけば良いと思いますが、細かい内容や評価の方法などについては、社会の変化に柔軟に対応できるものにしていければと思っています。 他の委員の方ともお会いして議論できることを楽しみにしております。 よろしく申し上げます。
松下委員	継続するほうがよい	—	花や木をきれいに保つことによって野鳥が現れることが多くなれば嬉しいと思います。 マドリードでは、珍しい見たことのないきれいな鳥が都会の木にとまっていて、芦屋もきっとこうなれる！と思いました
永瀬委員	改定するほうがよい	1.第3次計画から今日までに起こった災害、事件、環境変化などから得た現在の知識や経験を反映させるほうが良いと思います。 2.文言や言い回しなども今の時代に伝わりやすい言葉に変換していく必要があると考えます。	第3次計画の3ページ目にあるような複数の計画や、それに付随する委員会など含めて、効率化または簡素化が図れないか検討して頂きたい。また、刻一刻と状況が変化するこの時代に環境計画の10年という期間が長過ぎないか再検討しても良いかと思えます。
浜橋委員	改定するほうがよい	改定というより、より明確にさせていただきたいところがあります。 基本目標の①自然環境を守るの進め方ですが、「芦屋にかかわりがある」先生はもちろん、生物や生態学について正確かつ詳細な知識を有する専門家を外からも広く求め、環境施策改定・推進に関わってもらうこと、そうした専門家の意見を積極的に生かしていく姿勢が必要不可欠だと思います。 例えば、植物の専門家、魚や貝類の専門家、昆虫の専門家、哺乳類の専門家、鳥類の専門家などの意見を聞いて、貴重な芦屋の生物環境をどこまで守るかアウトラインをきちんと引いて、環境保護を進めてほしいです。	別資料「環境計画策定委員会資料」を別途、添付しました。 「なぜ専門家が不可欠か」について、事例を挙げた資料を添付しました。 たまたま長男が、動物生態学（魚類）の研究をされていて、芦屋の生き物調査にも小さいころから参加していたこともあり、その思いをまとめたものです。学生なので、表現の方法も荒っぽく、こなれていませんが、生態学からの視点を少しでもご理解いただけましたら幸いです。
久委員	ご意見なし	—	—
三橋委員	改定するほうがよい	自然環境という表現よりも、生物多様性や生態系サービスを軸とするのが良い。環境教育や社会教育などを柱の1つにしても良いのではないかと。体験型や実践型など、単なる理念や寄合的なイベントではないものを導入できないか。学校教育との連携や、博物館や図書館の再構成を通じた実践的で科学的な取り組みができるようにした方がいい。 美しいまちなみについては、無くても良い。他の計画でカバーできるし、生態系サービスの1つになる。 5つの軸の1つは複合化を軸にしても良いのではないかと。	水資源利用や下水処理についても、自然環境分野との協働ができる部分がある。施策の複合化、ポリシーミックスが必要。 芦屋の海岸エリアの自然再生や活用をもっと積極的に進めることが重要、優れた自然の再生は、どんな環境教育やイベントよりも重要。 環境学習の拠点となる施設を設けて、実践活動や施策の横軸をつなぐようなことが必要。 漠然とした"まちづくり"や"コミュニティ再生"みたいな実効性のない会合やイベントは一掃しても良いと思います。
美濃委員	改定するほうがよい	現在の計画策定が平成27年とおおよそ10年前。時代からの要請も変化があるため、少なくとも第3者による見直しのプロセスは必要であると考えます。 具体的な改定は委員での議論によれば良いと思いますが、最近では、SDGsの考え方が普及、生物多様性に関する取り組みも盛んになってきています。これらを環境計画にどのように取り入れるのかは検討の余地があらうかと思えます。いずれも公的なセクターだけでなく、多様な主体をいかに巻き込むかが課題で、そういった視点も議論が必要ではないかと思えます。	特になし
村上委員	継続するほうがよい	—	特になし
山口委員	改定するほうがよい	①自然環境を守る、に関連して、現在国際的にも国のレベルでも、ネイチャーポジティブという考え方が出てきています。これは、自然生態系の劣化をとめ、生態系を増加基調に戻すことを想定しており、従来の自然環境の保全にとどまるものではありません。自然環境を守る、という劣化をゼロに近づけるイメージのものではなく、ポジティブに持っていくことをイメージに含められるとよいのではないかと思います。 そのほか、④に関する背景情報について、若干アップデートが必要だと思いました	特になし